公共施設在り方・再編方針策定に係るワークショップ

一緒に考えよう
小金井市のこれからの公共施設

第３回結果報告

第１回
12月14日（土曜日）

第２回
１月25日（土曜日）

第３回
３月１日（土曜日）

1、公共施設在り方・再編方針策定に係るワークショップ　目的・実施概要

（1）開催目的・趣旨

公共施設を取り巻く社会環境が大きく変わる中、市では、市民の大切な財産である公共施設について、これからの時代に必要な在り方及び既存施設の再編について検討を行っています。普段利用している身近なサービスや公共施設について考え、その実現に向けた気づきやアイデアを提案してもらい、今後の具体的な検討につなげることを目的として全3回のワークショップを開催しました。

（2）実施概要

	第1回	第2回	第3回
日時	令和６年12月14日（土） 13時~16時	令和７年１月25日（土） 13時~16時	令和７年３月１日（土） 13時~16時
場所	小金井市市民会館　（萌え木ホール）		
参加人数	市内在住又は在勤・在学の方を対象に定員35名にて募集を行ったところ、第1回は10名、第2回は新たな方も加わり10名、第３回は６名（※１名は事前にアイデア提出）の方にご参加いただきました。		
	2班編成　10名	3班編成　10名	3班編成　６名
プログラム内容	**必要な公共サービスってなんだろう？未来の公共施設で何をしてみたい？** あなたは未来の公共施設で何をやりたいですか？行きたくなる、使いたくなる公共施設にしていくために、皆さんのやりたいことを教えてください。	**みんなのやりたいを実現するために必要な機能を考えよう** どのような場所になったら、「みんなの居場所」や「人と人をつなぐ機能」を実現する、皆さんの「○○したい」を実現できますか？ 今後（未来）の小金井市の公共施設の施設・機能、そして配置について一緒に考えます。	**私たちが考えるこれからの公共施設** 「私たちが考えるこれからの公共施設」として、まとめます。 第1回からのWSを通して皆さんが考えるこれからの公共施設のキャッチフレーズ、目指す姿や方針・在り方について一緒に整理します。

2、公共施設在り方・再編方針策定に係るワークショップ　第３回結果概要

（１）プログラム内容とワークショップの流れ

プログラム内容

テーマ

私たちが考える
これからの公共施設

内容

1　開会
　挨拶（白井市長）

2　前回の振り返り
　本日のプログラム内容の説明

3　ワークショップ（グループワーク方式）

4　発表・意見交換

5　総評（白井市長・神山副市長）
　閉会

ワークショップの流れ

STEP 1
班のみんなで共有

STEP 2
テーマにそって
さらに意見交換

STEP 2-2
みんなで共有の
ための整理

STEP 3
各班発表

STEP 4
参加者全員で共有
感想・意見交換

13:22～
意見交換
90分間

15:02～
発表、感想・意見交換
発表は各班5分

2、公共施設在り方・再編方針策定に係るワークショップ　第３回結果概要

テーマ
私たちが考える
これからの公共施設

（１）ワークショップの様子

市長挨拶

白井市長より、開会の挨拶をさせていただきました。

前回までの結果とし、「公共施設は、みんなの居場所であり、人と人がつながる機能が必要であること、そして誰もが自由にいることのできる場であってほしい。」といった報告を受けている。

市では現在インクルーシブに配慮した公園づくりを進めており、公園にかかわる様々な方々のご意見を聞きながら整備方針を定めてきた。

皆さんからいただいたご意見をうまく整理し、今後の検討に活かしていきたいと思う。皆さんの様々なご意見を楽しみにしている。

前回の振り返り

はじめに第２回ワークショップの振り返りを行いました。

ワーク１：自由に過ごせる場所で特定の目的がなくても立ち寄れるような、滞在場所でもあり、多世代交流が可能となる機能・インクルーシブな施設など。

ワーク２：武蔵小金井駅をはじめとする駅前や駅周辺にコア施設があり、既存の公民館（センター）もしくは中学校などを核とした地域拠点を配置をする。

といった機能誘導・施設誘導に関するご意見をいただいたことを説明。

ワーク

「私たちが考えるこれからの公共施設」として、第1回からのWSを通して皆さんが考えるこれからの公共施設のキャッチフレーズ、目指す姿や方針・在り方についてとりまとめました。

皆さんにはこれまでのワークショップを振り返り、改めて感じることやアイデア等について事前検討をお願いししたところ、多くのアイデアを整理してきてくださりスムーズに進めることができました。

ご協力ありがとうございました。

ワーク

アイデアが次々と出され、ワークシートが埋まっていきます。

発表

各班を代表して、３名の方に「私たちの考えるこれからの公共施設」について、キャッチフレーズや今後の在り方、施設や機能配置の考え方などについて発表していただきました。

総評

神山副市長

話し合い、意見交換しながら進めることの大事さを改めて感じるとともに、回を重ねるごとに議論が深まっていく過程を見る事ができ、非常に良かった。学校施設の建替え、新庁舎整備等、市としてどのように想いを実現するのか考えるフェーズだと思っている。小金井市はまだまだ伸びしろ（余白）のあるまちであり、ワクワクするまちを一緒につくっていきたい。

白井市長

共通するキーワードは「つながり」「コミュニティ」「居場所」だったのではないかと思う。公共施設は、つながりを生み育む機能を市民の皆さんから求められている、と改めて気づかされた。公共施設在り方・再編のWSにも拘わらず、公共施設はハコモノではなく、やはりソフト機能と、たどり着くことが非常に面白く、また居場所がテーマになる時代と感じた。今回のWSをふまえ、本質的に何が求められているか考え、公共施設在り方検討委員会でもご議論いただきながら、今後の公共施設在り方・再編方針としてとりまとめていきたい。全3回にわたり多くのご意見・ご提案をいただきありがとうございました。

（２）ワークショップの結果まとめ

ワーク　私たちの考えるこれからの公共施設

【１班　まとめ】 **つながり育てるみんなの庭**

- 単にハードの公共施設を提供するだけでなく、場づくりを促進するソフト、考え方を提供していくべき。
- 未来への３つの視点「つなぐ人」、「つなぐ機能」、「つなぐ体制」を踏まえ、「①つながることを手伝う」、「②つながらない自由を尊重する」、「③目的・テーマにこだわらない」をコンセプト（行政がやるべきこと）とする。
- 行政の考え方や姿勢・取組みが市民に伝わることで行政への関心も高まり、効率的・効果的な施策や事業が打てるといった行政運営が可能になる。
- 多様な過ごし方でみんなが共存できるフードコート型の空間と、キッチンやダイニング、Wi-Fi等を基本設備とする。
- 新施設は「基本設備」に図書館、スポーツ関連、各種相談、ケア関連などの個別機能をそれぞれ付随させる。
- 空間や機能に余白をもった施設とする
- プロトタイプをつくり、走りながら考える。
- 民間活用や市民活用によりつなぐ人を増やす、育てる。
- 集会施設等は段階的に集約し、交通手段の整備もセットで検討。

＜施設配置の考え方＞

- 市内6か所程度のコア施設を配置。大規模な施設は、武蔵小金井駅、東小金井付近に配置。他は小学校区・中学校区をベースに配置。

【２班　まとめ】

時代のニーズに合わせた機能転換を図っていく

- 人や小金井市の歴史、これまでの人々の活動をつないで社会にひろげていく。
- 当初はまちづくりプランナーなどを配置し市民を巻き込み、持続的な活動を促す
- 目的のある人もない人も利用できる開放的な場であり、各々のニーズに応える場・機能を整備する。
- オンライン、各エリアのコア施設、駅近施設など、それぞれの状況に応じて利用方法を選択できる。
- 気軽に話し合いに参加できる、認知してもらえる場所でまちづくりを考える。単発でなく持続的に話し合える。

＜施設配置の考え方＞

- 地域拠点（コア施設）は５つ（中学校区：東/北東/北西/中/南）
- 各拠点に機能を集約する（学校教育/市民文化/社会教育/子育て/スポーツ/保健福祉/行政等・・・）

【３班　まとめ】

小金井に居続けたいと思う
コミュニティネットワークが生まれる場所

- 誰でも使用でき、管理コストのかからないオープンスペースとして、1対1のコミュニケーションやグループ活動などコミュニティの多様生に対応でき、そこからコミュニティや活動が広がる仕組みづくりが必要。
- コミュニティネットワークができることで、小金井市に住み続けたいと思えるような役割を公共施設が担う。
- 働き方や過ごし方も変わってくるので、ニーズに応えていくために、市民が考え意見交換し続け、まちづくりについて考えることが必要。
- 安全性・プライバシーを確保しつつ、予約や利用者登録などの煩雑は手続きなく誰でも利用できる場
- 運営のあり方に加え、利用者の交通手段も考慮された施設。
- 拠点施設には屋根付きの人工芝広場があるとよい

＜施設配置の考え方＞

- 徒歩圏内で人が集まれる集会所のような施設は必要
- 駅前など利便性の高い場所に、自由に出入り/交流、無人予約受取り図書館、移動型行政サービスのような簡易的スペース

- 公共施設として、場の提供だけではなく、**つながる仕組みづくり**に関しての提案が多くみられ、**つなぐ人、つなぐ機能**が求められている。
- 施設配置の考え方としては、**武蔵小金井駅・東小金井駅の両駅**には行政機能のみならず、交流機能や自由に過ごせる空間等を附帯させた**利便性の高い施設**が求められている。
- 地域の人が日常的に利用できる地域拠点としては、市民が馴染みやすい**中学校区等を基準とした配置**が提案されている。

公共施設在り方・再編方針策定に係るワークショップ

一緒に考えよう
小金井市のこれからの公共施設

1　班

私たちが考える これからの公共施設

キャッチフレーズ・将来像：

つながり育てるみんなの『庭』

＝市民の主体的な交流を促進し、
未来のニーズに応える施策の提案＝

1．1班の現状認識と課題感

- 人やコミュニティのつながりの希薄化・たこつぼ化・孤立化
- 個々人の地域への課題認識はあるだろうが、つながりによる課題認識の共有や主体的な行動の醸成ができにくい
- 地域への関心引いては市政の関心も薄れているかもしれない
- 行政がやるべきことは単に場所を提供するのではなく場づくりを促進するソフトを提供していくべき
- つながることを助け、育み、「人」という「点」を繋げて「線」に、さらにそれを「面」している政策が必要

2．未来への視点　３つの必要要素：つなぐ人、つなぐ機能、つなぐ体制

3．視点からのコンセプト（行政がやるべきこと）

①つながることを手伝う

②つながらない自由を尊重する

- ➢人と人 人とコミュニティ、コミュニティとコミュニティ それぞれが繋がるルートを作っておく
- ➢つながりの発生を見守る・手伝う
- ➢コミュニティの創生を見守る・手伝う

③目的・テーマにこだわらない

- つながるルート・体制が良好に整備されており、望めば利用できることを市民が知っている状態であるとよい
- その状態を行政やコミュニティ当事者が意識して整備していけばよい
- 行政側のこうした考えや姿勢、取り組みが将来的に市民にも浸透していくことが望ましい。市政への関心が向上し、市民ニーズ把握の解像度が向上する可能性がある
- それによって行政がピンポイントで施策や事業が打てることも可能になる

4．未来の施設へ（新施設について）

- ➢ コンセプトを公共施設として具現化するには、既存の施設での対応は困難かもしれない
- ➢ そのため新しい仕組み（ここでは「新施設」と呼ぶ）が必要

メイン設備１（参考モデル：フードコート＝みんなのもの）

- フードコートはそれぞれの人やグループが、それぞれの店で買った食事をそれぞれの席で分かれて食べる
- 一つの広いところにそれぞれ分かれて座っているが、お互いの様子は見える
- （やろうと思えば、お互いがよければ、）お互い関わることができる
- また、フードコートは特定の人が占有することはできない　⇒そのイメージをモデルにする

メイン設備２（イメージ：人や動物がそれぞれに存在・共存している「庭」のようなもの

- 一つのオープンスペースの中でそれぞれ活動したり、ただボーっとしていたり、本を読んでいたりする。あえて壁をつくらない
- 個人やグループやコミュニティが共存している空間。それが自然な状態。
- それぞれが望めば、つながることも出来る。つながることを手伝う人もそこにいる
- 物理的な壁を取払うことで自然な共存と交流を可能にしつつ、個別ニーズも配慮。またオンライン参加「も」可能に。
- １人になりたい人、静かに食事をしたい人などに向けた専用スペースも設ける。壁が必要な場合のために旧来のスペースも設ける。あぐらをかける場所も必要かも。

ほかの設備

- 一般的な家がもっている設備をもつ（屋根、キッチン、リビングやダイニング（前述の「庭」）、Wi-Fなどのインフラ）
- 設備や什器を使うので、利用者間の一定の自治が必要かもしれない（自由でありつつも無秩序にならない）

基本と派生

- 新施設は「基本設備」としてここまで述べた設備をすべて持っている
- これに図書館機能、スポーツ関連機能、各種相談、ケア関連などの個別機能をそれぞれ付随させる
- 余白づくり、選択肢をふやすためにも、入りきらない機能は例えば移動図書館などで補う

５．新施設とセットでやるソフト施策等について

①つなぐ人をふやす

- これまで以上のマンパワー、スキルが必要になるかもしれない。行政だけではなく、民間活用や市民の活躍が望まれる
- 専門家に監修してもらい、つながることを手伝う人や、コミュニティをつくる人を育てていく

②交通手段の整備

- 既存集会施設や公民館を段階的に解消し新施設に集約するならば、交通手段の整備をセットで考える必要がある
- 逆に交通手段を整備し交通利便性を高めることで、様々な集約化を進められる可能性も（例：富山港線のLRT化）
- 隣接市のコミセンなどとの連携もできたら良い。複数市との「面」的な交通の連携ができれば、新たな可能性が広がる。小金井市が多摩東部のターミナルになるかもしれない。

③取り組みの姿勢について

- プロトタイピング＋走りながら考える。プロトタイプの案をいくつかつくる。その中から一つを施策として実行する
- 並行してプロトタイプの案を増やしたり、考え続ける。さまざまな社会情勢や環境変化のモニタリングの継続が必要。既存の施設を使って試験運用する方法もある
- 短いスパンで振り返り、見直しを行う。それまでに考えていたプロトタイプの案の一つに切り替えても良い
- １から作り上げてもよいが、プロトタイプ案がいくつかあれば思考のギアが数段上がった状態から考えることができる
- 新施設はこれからの変化に柔軟に対応することができる、ガチガチに固めない、「余白」を持つ施設にしたい
- 常に進化・成長していく。市民（利用者）が施設をつくっていく

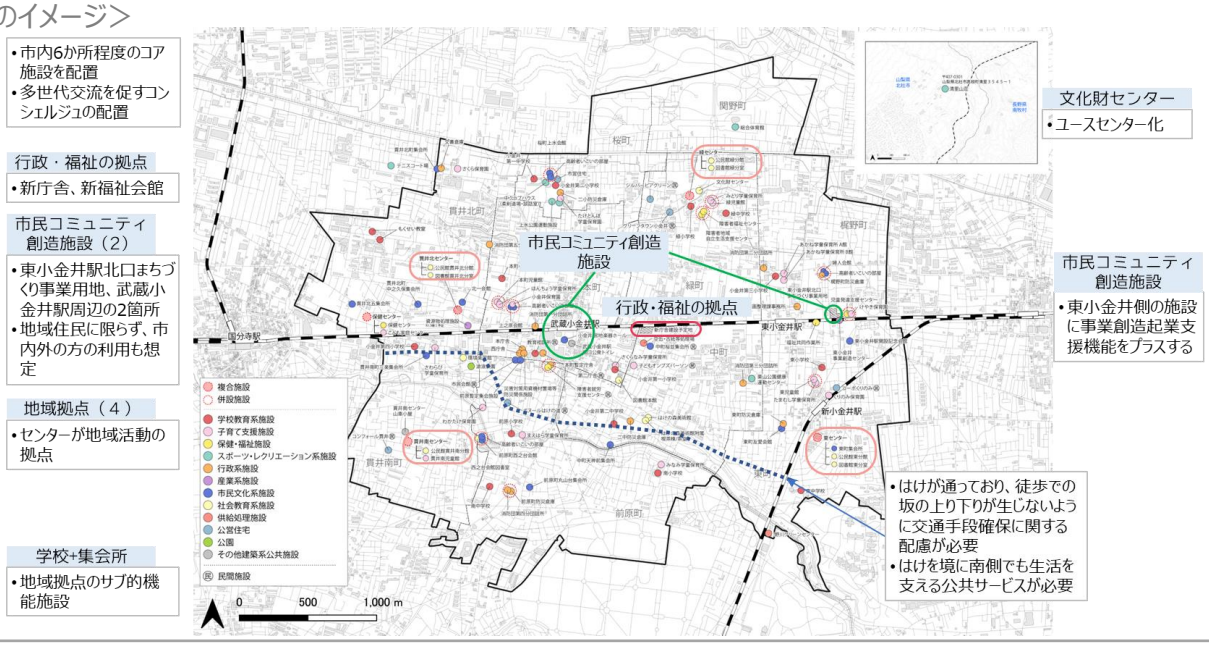
④新しい世界観の認知・周知

- これまでの考え方とは異なる、新しい世界観、新しい価値観、新しい認識を持続して忍耐強く広めることが必要

６．施設配置の考え方について

- 場所が大がかりな施設は、両駅付近に配置。他は小学校区・中学校区をベースに配置。
- 小学校の建替と連動して一部機能を学校に持たせることも検討。校区ごとの人口動態の分析も必要かもしれない
- 交通手段の整備・検討も必要。その他、物理的な距離を補完するために、図書館の遠距離貸出、図書予約制度の利用度向上、講座・集会のオンライン＋リアルのハイブリッド開催を可能とする仕組みの導入
- 移動図書館等を導入して、おすすめ図書、文字に親しむ機会、本に出合う機会、本に触れる機会等を増やす

＜配置のイメージ＞



■ワークショップを終えての感想

- これを「理想論」と片づけず、考えを引き継いでもらいたいです！
- 現状の改善に陥ることなく、あるべき姿から現状を変えていく「バックキャスティング」を行って検討をして欲しいです
- あーだこーだしている所からオープンに
- 部署を越えて一緒に取り組みたい
- 一から考えたいというメンバーの要望も受け止めてくださったおかげで、議論を一から組み立てることができました。
- 「それは理想だよね」で終わらせないで
- 断ち切れにならないで欲しい
- こういうWSを開催する時に、より多くの市民が参加できるような工夫をして欲しい
- 「余白」を残せるような成果設定をして欲しい
- ディレクターを入れて下さい
- 大事なことってめんどくさいんです

公共施設在り方・再編方針策定に係るワークショップ

一緒に考えよう
小金井市のこれからの公共施設

2　班

私たちが考える これからの公共施設

キャッチフレーズ・将来像：
“時代のニーズに合わせた機能転換を図っていく“
＝認め合い、支え、繋がり　いきいきと暮らそう＝

【目指す姿や方針、公共施設のこれからの在り方など】

◆ 人（市民）・文化・市民の活動をつないで社会に広げていく
- 地域をよく知るコーディネーター/有識者/まちづくりプランナー　なども配置する
- 市民を巻き込み、持続的な活動を促す（コーディネーターのみに任せるのではない）

◆ 地域拠点施設（コア施設）を設ける
- 徒歩＋自転車圏域ごとに配置する
- 多世代交流を促す環境とする

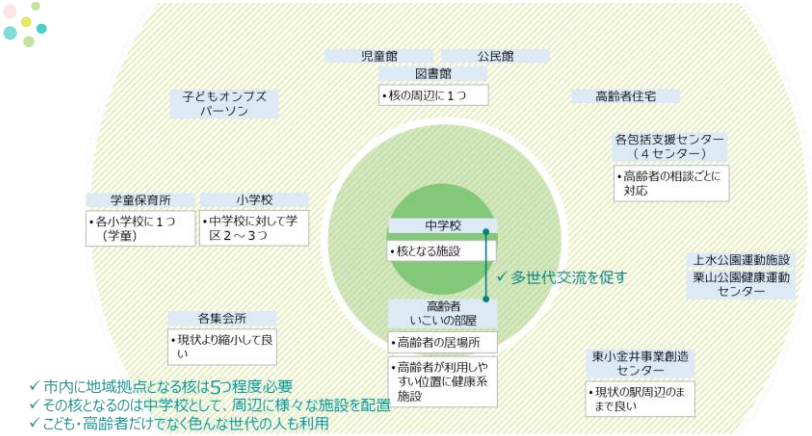
◆ 各々の状況・ニーズに合わせて利用施設、利用方法を選択できる
- 交流/一時休憩/自習など、様々なニーズに応える施設を整備する
- オンライン/各エリアのコア施設/駅近施設など、状況に応じて利用方法を選択できる（ex.行政手続き）

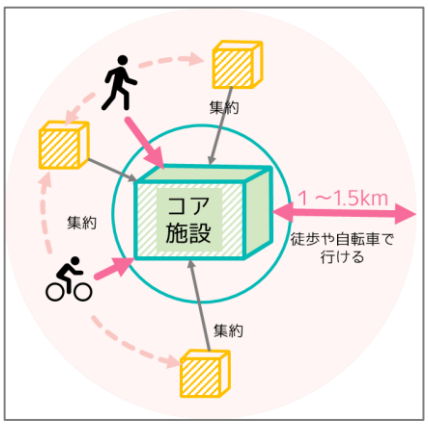
◆誰もが公平に、気軽に利用できる
- 目的がない人でも出入りできる環境とする
- 開放的な雰囲気づくりを行う

◆ これからのまちづくりを考える場を設ける
- 気軽に話し合いに参加できる場所、通りがかりの人も認知できる場所に設ける
- 単発イベントではなく、持続的に話し合えるような環境づくりを行う

＜配置の考え方・イメージ＞
- 地域拠点（コア施設）は５つ（中学校区：東/北東/北西/中/南）
- 各拠点に機能を集約する（学校教育/市民文化/社会教育/子育て/スポーツ/保健福祉/行政等・・・）

⇒コア施設に行けば様々なニーズが叶うようにする。利便性向上を図る。
⇒施設の管理、運営も効果的に





■ワークショップを終えての感想
- 自分達が住む町のことを皆で話し合うことで、将来まで続くまちづくりにつながると感じた。
- WS参加者以外の方にも、まちの課題には関心を持って欲しい。

公共施設在り方・再編方針策定に係るワークショップ

一緒に考えよう
小金井市のこれからの公共施設

3　班

私たちが考える これからの公共施設

キャッチフレーズ・将来像：

小金井に居続けたいと思う
コミュニティネットワークが生まれる場所

【目指す姿や方針、公共施設のこれからの在り方など】

■小金井に居続ける（住み続ける）理由になる公共施設

- 魅力ある公共施設があることで、小金井に住み続けたいと思えるように

■「交流」コミュニティをつくるキッカケになる

- コミュニティの“多様性”に対応できる施設
- グループ（サークル）活動も、一人でも参加できる空間のある施設
- “来る”キッカケ、１対１の交流が生まれるキッカケ、くつろげる施設

⇒貸館施設の1室を解放し、一人でも利用できる空間とし、そこに来る人同士が繋がるような仕組み、仕掛けをつくる

⇒一人利用、グループ利用など、コミュニティの形にあわせて利用のバリエーションがあることで、一人一人が自分にあったコミュニティに参加できる。

■誰でも使用できる

- 予約なしに使うことのできる、オープンなスペースがある
- 利用者登録などの煩雑な手続きがなく、使いやすい

⇒誰でも使用できる反面、利用者の安全とプライバシーの確保が課題

■事業としての持続可能性が確保されている

- 人員をかけずとも成り立つ運営の仕組みがある
- バスや車ユーザーの動線も考慮されている
- 広域に人が集まる“拠点”には駐車場を

＜配置の考え方・イメージ＞

- 徒歩圏内の人が集まる範囲に集会所のような施設は必要。集会所の１室は予約なく誰でも出入りできる部屋とし、1対1のコミュニティが出来上がる（知り合える）場所にする。コストをかけない運営をするが、人と人が繋がれるよう、ちょっとした“工夫”をする（カードゲームを置く、冷蔵文庫（古い冷蔵庫を利用した本の交換サービス）を置くなど）
- イベントなどが実施される拠点施設には大きな駐車場を配置する
- 駅前など利便性の高い場所に、自由に出入り/交流、無人予約受取り図書館、移動型行政サービスのような簡易的スペース（福祉共同作業所跡、宮地楽器ホール、マルチパーパススペースD）
- 拠点施設に屋根付きの人工芝広場があれば、雨/猛暑の中でも子どもと遊ぶ、イベントができるスペースになり、屋内型よりも管理費が抑えられる（例：ららぽーと名古屋みなとアクルス／立川高島屋屋上／虎ノ門ヒルズオーバル広場など）

■ワークショップを終えての感想

・自分の意見を言える場となって、楽しかった。

・色々な人の意見を聞くことがでて勉強になった。